

2020年3月22日(日)朝 10:10～
3月第4共同主日礼拝式説教

主の復活前第3、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題: **見よ、わたしが選んだわたしの僕**(18節)

聖書: マタイ 12章18～21節

<口語訳>

新約聖書18～ 頁

マタイ 12章18～21節

<新共同訳>

新約聖書22～ 頁

マタイ 12章18～21節

<新改訳第3版>

新約聖書22～ 頁

マタイ 12章18～21節

<塚本訳>

新約聖書101～ 頁

主題: 主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。

◇本日の**2:18～21**は、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が、「**御子イエス・キリスト様**」を殺害しようとしたので、異邦人に福音を宣べ伝える新しい時代が来たことを告げ、**マタイ**は、それが、「**イザヤ42:3の成就**」と宣言します。

⇒「**イザヤ42:3の成就**」の中身をより詳しく見て参りたいと願います。

⇒「**イザヤ42:3**」は、「**御子イエス・キリスト様**」が、「**わたし(主)の選んだしもべ**」であることを**預言**しています。

⇒「**わたし(主)の選んだしもべ**」は、①主の心にかない、②主が最愛の者と呼び、③主の聖霊を与え、③異邦人に福音を宣べ伝えます。

⇒しかも、「**パリサイ派の人**」が、敗北者でなく、勝利者でなければならないと信じていたのとは、真逆のしもべで、「争わず、叫ばず」、「折れた葦やくすぶる燈心の人」を大事にされる。

本論；

◇本日、**マタイ書12章18～21節**から**主の使信**に**思い・心 νοῦς(nouj)**をとめます。

◆**マタイ12章18～21節**；使徒マタイは、「わたし(主)の**選んだしもべ**」である**神の御子イエス・キリスト様**が、「**イザヤ42:3の成就(18)**」を受けて、どのように振舞われたかを語り、異邦人の時代が始まったことを**使徒マタイ**は、宣言しています。

◇**12:18～22節**；塚本訳◆**イエスの伝道法**

- 「18 『これがわたしの選んだ僕、心になつたわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる。
19 彼は争わず、叫ばず、大通りにその声を聞く者もあるまい。
20 傷ついた葦を彼は折らず、くすぶる燈心を消さない、(わたしの)正義に勝利を得させるまでは。
21 異教人は彼に望みをかけるであろう。』」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**18節**；「『これがわたしの選んだ僕、心にかなったわたしの最愛の者。わたしは彼にわたしの霊を与え、彼は異教人に(わたしの)正義を告げる』は、「**イザヤ42:1**」では、「【口語訳】わたしの支持するわがしもべ、わたしの喜ぶわが選び人を見よ。わたしはわが霊を彼に与えた。彼はもろもろの国びとに道をしめす。」となっており、「わたしの喜ぶしもべ」であり、「もろもろの国ばとに道を示す」とあります。

⇒**マタイ**は、自由引用して、「心にかなったわたしの最愛の者」とし、「異教人に(わたしの)正義を告げる」と、言い換えています。

⇒「かなう」は、「喜ぶ、気にいたっている」の意味があります。「正義」は、「道」と訳されていますが、「さばき、公正、判決」の意味があり、「正義」と訳されていることは、「さばき」の意味があり、「道」も、真実をもって道(正義)示す意味があると、**SY師**は、語義を解説しています。

⇒**マタイ**は、「**御子イエス・キリスト様**」が、**神**の天の御国を思い、みこころに服従するお方で、真実の生き方(道；ヨハネ14:6)をなされるお方であることをあかししたかったのです。

⇒そして、聖霊に満たされておられます。

◇**19～21節**；「彼は争わず、叫ばず、大通りにその声を聞く者もあるまいか」こ彼は争わず、叫ばず、大通りにその声を聞く者もあるまい(19)」、「傷ついた葦を彼は折らず、くすぶる燈心を消さない、(わたしの)正義に勝利を得させるまでは(20)」、「異教人は彼に望みをかけるであろう恰好異教人は彼に望みをかけるであろう」、「**マタイ**」は、「**御子イエス・キリスト様**」が、①「彼は争わず、叫ばず、大通りにその声を聞く者もあるまい」、②「傷ついた葦を彼は折らず、くすぶる燈心を消さない、(わたしの)正義に勝利を得させるまでは」と、「**権力・政治力等**」に頼らず、むしろ「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が、「傷ついた葦やくすぶる燈心のように扱っている人々」を「**葦を折らず、燈心を消さない**」扱いをしてくださるのです。

⇒「**イザヤ41:25**」、「**イザヤ45:1**」で語られるペルシャ王クロスは、救い主(メシヤ)の雛形ですが、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」は、政治的解放者と理解し、救い主を求め、政治力を用いず、病める者、傷ついている人々を開放し、支配者でなく、「しもべ」として、生きる道(義)を「**御子イエス・キリスト様**」は、示された。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日の**2:18～21**は、「ユダヤ人指導者・パリサイ派の人」が、「御子イエス・キリスト様」を殺害しようとしたので、異邦人に福音を宣べ伝える新しい時代が来たことを告げ、マタイは、それが、「イザヤ42:3の成就」と宣言します。
- ⇒「イザヤ42:3」は、「御子イエス・キリスト様」が、「わたし(主)の選んだしもべ」であることを預言しています。
- ⇒「わたし(主)の選んだしもべ」は、①主の心にかない、②主が最愛の者と呼び、③主の聖霊を与え、④異邦人に福音を宣べ伝えます。
- ⇒しかも、「パリサイ派の人」が、敗北者でなく、勝利者でなければならないと信じていたのとは、真逆のしもべで、「争わず、叫ばず」、「折れた葦やくすぶる燈心の人」を大事にされる。

⇒「ユダヤ人指導者・パリサイ派の人」が、政治的解放の勝利者像の救い主に固執するの中で、「御子イエス・キリスト様」は、それと真逆の①「彼は争わず、叫ばず、大通りにその声を聞く者もあるまい」、②「傷ついた葦を彼は折らず、くすぶる燈心を消さない、(わたしの)正義に勝利を得させるまでは」と、「主のしもべ」に徹して下さったのです。

⇒「イザヤ43:19」;【口語訳】

見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起る、あなたがたはそれを知らないのか。わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる。

⇒主にある新しい時代は、**神**の「正義・公正・真実」が、中心です。つぶやき、嘆きで終わる時は、過ぎ去り、主が十字架を背負って下さって、罪を処理して下さったのです。**神**も、人にも、「正義・公正・真実」が、求められています。

